

美里町



後藤の朱槍

慶長 16 年（1611 年）、美里町西館地域にあった不動堂要害を任され、伊達家の信任厚く不動堂の地を治めた後藤家（家格：宿老、2,700 石）に代々伝わってきた二本の「朱槍」である。

その全体の形状から長いものを長槍、短いものを袋槍と称し、長槍は刀身のケラ首が長い形状から室町時代の作、袋槍は後藤家の木瓜紋もっこうもんが彫られた袋部の仕上げから江戸時代の作と考えられ、いずれも朱漆で塗られた柄を持つことが最大の特徴です。

『伊達世臣家譜』だてせしんかふ や 『仙台風俗志』せんだいふうぞくし によると、後藤家の祖先秀基が織田信長の兄信廣に仕えた際、その功績が認められ「朱塗の槍」と槍持ちの家来さもんじ、左文字の刀を拝領したのに加え、織田家の家紋である「木瓜紋」もっこうもん を賜ったと伝えられています。以後、槍持ちは長さ三尺の髭を蓄えた関羽の如き大男が務める慣わしとなり、伊達家大名行列における三本の名物槍の一つ「髭男の朱槍」として広く知られていたことが、紹介されています。